



# 善正寺だより

掲示板法話

## コロナ危機は目覚めの契機

### 他人事という殻を破っていきましょう

皆さん、悩ましい夏をお過ごしのことでしょうね？お盆の帰省もままならず、家族、親子など楽しみにしていた出会いも叶わぬ夏が来るとは夢にも思わなかった現実に、恨み言の一つも言いたいことかと思われまます。

親戚のご法事を機会に、故郷に帰ることをやむなく断念した女性(五十代?)から、法要の前夜メールを頂き、「仏さまは、コロナをどうご覧になっておられるのでしょうか？」とのお尋ねがありました。翌日の法要の場で、お参りの方々にこのお尋ねを披露し、先ず第一に「みんなが悩み苦しんでいる問題を、み仏さまに問うという姿勢そのものが有難く、尊いこと」と共感させて頂いたことをお話ししました。

その上で、ウイルス感染症は過去にも地球上の各地で起こっていたが、限られた地域の風土病に過ぎず、我々には他人事の世界の話だった。それが経済のグローバル化により、感染が拡大して他人事ではなくなったのですね。

「地球は嘔きました でもあなた は耳を貸さなかった 地球は話しま



した でもあなたは聞かなかった 地球は叫びました でもあなたは耳を塞いだ そして私は生まれました 私はあなたを罰するために生まれたのではありません 私はあなたの目を覚ますために生まれたのです...

これは「コロナ・ウイルスから人類への手紙」(ヴィヴィアン・リーチ)という詩の冒頭の一節。詩の中の「あなた」とは人類を指し、「私」とはコロナウイルスを指すのだと読めば、この詩は、地球環境の悪化(大洪水、森林火災、スーパー台風、竜巻、海洋汚染、氷山の崩壊、大干ばつ...)を他人事と片付けてきた私たちへの警鐘だと気づかされます。

「地球の声を聞いてください あなたの魂の声を聞いてください 地球を汚さないでください 争うことをやめてください 物質的なことに気をとられないでください そしてあなたの隣人を愛し始めてください 地球とその生き物たちを大切に始めてください 何故ならこの次私 はもつと強力になって帰って来るか

〒:512-0902  
三重県四日市市  
小杉町1014  
浄土真宗  
本願寺派  
善正寺  
☎:059-331-1670  
fax:059-332-0733

### ☆行事ご案内

#### ◇門信徒会9月例会

#### 9月20日(日)午前8時半

- ①正信偈(草譜)唱和; 調声・門信徒会長
- ②報恩講法要に向けて; 感染防止との両立方法 (地区追悼法要(隣寺)の為、早めに終了予定)



#### ◇絵手紙教室9月8日(第2火)前10時53回目

10月百五門徒展に出品。小杉郵便局にも展示  
川崎光子先生「下手がいい下手でいい」初心者歓迎

#### ◇キッズザンガ9月5日(第1土)後4時 鐘撞きは毎夕5時

#### ◇歌声喫茶9月17日(第3木)後1時(13回目)庫裏食堂

#### ◇『第10回百五銀行阿倉川支店善正寺「門徒展」作品募集

10月1カ月間開催、締め切り9/29。11月2, 3日『報恩講』で本堂に展示。皆様の作品お待ちしております。

#### ◇「小杉町追悼法要」9月20日(日)光念寺様(隔年で)

小杉町仏教会主催。コロナで短縮・変更になるかも?

#### ◇善正寺ホームページ「三重善正寺」検索。1年分の寺報閲覧

毎日更新ブログ『住職と坊守のつれづれ日記』好評、開設12年1か月で32万5千訪問。悩み相談やコメント大歓迎、即返信

#### ◇一縁会テレホン法話TEL059-354-1454で3分間の法話。三重組

5か寺の住職・坊守・若院が週替り担当。18冊目新刊本発売中

#### ◇新納骨堂: 後継者の無い方、お墓でお困りの方ご相談下さい

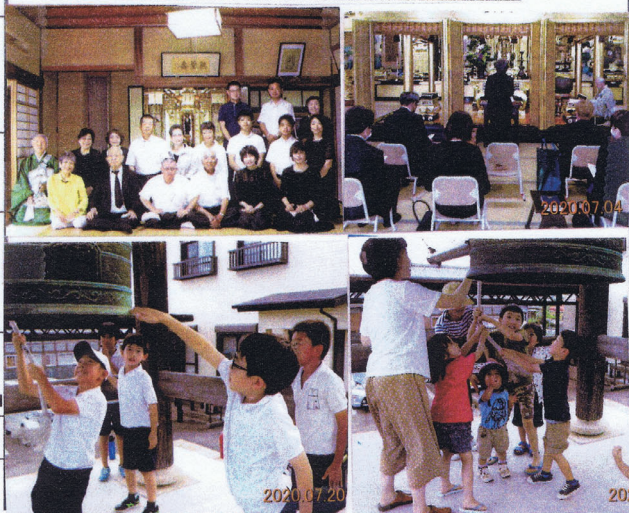
#### ◇法事の場所でお困りの方: 本堂使用可。寺にご相談下さい

もしれない...と人類の目覚めを願っています。

長い詩なので、全てを紹介できませんが、地球環境の汚染を他人事のように看過してきた結果、新型ウイルスが増殖し、世界中に拡散してしまっただと読み解くことができるでしょう。

仏さまはあらゆるいのちを救わずにおれないとお働き下さっています。だから、他人事という狭い考えを改めてあらゆるいのちを大切に生きる方を願っておられます。不完全なお互いですが、み仏の願いをわが身の上に関き開き、つながり合って生かされる道を模索して歩みたいものです。

### ☆ 写真アラカルト ☆



2020.07.20

202

### 坊守スケッチ

## 心の毒を消す薬

# 感謝

薬は人間にとって益になるものもあれば、害になるものもある。先月難病を患った女性が「安楽死したい」と二人の医師にSNSで相談して、毒を与えられて死亡した。この事件から私は嫁と姑に関するあるエピソード(中井俊巳著書参照)を思い出した。

昔から嫁と姑の仲は悪くて当然。近年はその摩擦を避けるために最初から別居している家が多い。その昔、高齢で病気がちの姑がいた。いつも機嫌が悪く、事あるごとに嫁をいびつた。近所や親戚の人に「ウチの嫁は機嫌が利かない。要領悪くて怠け者」と言いふらした。嫁が口答えでもしたら、その何倍にもなって跳ね返って来た。耐えかねた嫁はある高僧に相談した。「そうか、お前の望みを叶えてやろう。

この薬を姑の食事に少しずつ混ぜなさい。すると次第に体が弱り、しばらくして亡くなるだろう。但しこの薬を入れると味が少し落ちるから、食事毎に姑に感謝の言葉を何か言いなさい」嫁は言われるままに実行した。「未熟な私はお義母さんのおかげで一人前にさせて頂きます。ありがとうございませす」と根も葉もない嘘を並びたてた。急に優しくなった嫁の態度を不思議に思った姑だったが、嫁の変化に姑の顔つきや言葉も次第に柔和になった。「ウチの嫁は息子が選んだだけであっ

て出来た女だ」と周囲に自慢するようになった。次第に弱っていく姑の姿を見て、嫁は良心の呵責に耐えかねて再び高僧の元を訪ねた。

「私は罪深い女です。お義母さんを老衰に見せかけて毒殺しようとしていません。死なせたくなりません。あの毒を消す薬を下さい」と泣いて頼んだ。「あれは海藻を粉にしたもの。毒ではない。心の毒を消す薬は、相手への感謝の言葉や思いやりで消え去るのじや」と高僧は諭した。ところで善正寺亡き先代住職の【鏡】という詩がある。「鏡に映るわが姿 につこり笑えば向こうも笑う 睨みつければ睨んで返す 思い回せば浮世は鏡 泣くも笑うも我次第」。この嫁と姑の話を重ね合わせて、その詩を心で反芻した。

### 俳壇

初蝉や地球爆発天を吐く 釋妙水  
空席やオセロの如く七月場所  
平日はシニアポイント夏セール  
手の平で飛び跳ね躍る赤目高  
壮大な夕焼け外れ梅雨長し  
盆踊り親鸞さまの旅姿 釋榮邦  
公園に青き匂いや草刈女  
歩を止める行く手にのたる青大将  
不意の風汗ばむ背なを通り抜け  
写経せし心偲ばる初盆会 釋清風  
真白なる鷺舞ひ降りて青田中  
水鉄砲追ふも逃ぐるも笑顔かな

### ☆看護夫婦の「育自な日記」69

年長の長女が七月、お泊り保育へ行きました。梅雨明けの遅かった今年、お泊り保育も連日の雨でしたが、親の心配や不安をよそに出発前の子どもたちはみな期待にあふれていました。

三年前の長男のときは、数日前から夜中の酷い咳で泣く泣く休ませたので、長女にはなんとか無事に行つて欲しいと願っていました。長女は出発一週間前から、新調した大きいリュックにタオルや着替えを詰め、不安よりも楽しみの方が大きいようでした。

長女不在の間、長男はいつもより少しだけの自由を満喫。長女がどんな表情で帰ってくるか楽しみに、私もいつもより広いベッドで寝ました。

予定時間を少し過ぎてバスが帰園しました。降りてきた長女の目の下にはクマ、とても眠そうな表情でしたが、帰宅してからは色々お喋りして意外と元気です。二段ベッドの下段で寝たこと、大きな風呂に入ったこと、キールホルダー作り、朝ご飯が遅く腹ペコだったこと等。いつもと違う環境で、お友達や先生方と寝食を共にして学ぶことや感じる事が沢山あったそうです。この経験が自信となつて今後の成長に繋がればと思っています。



### ☆カンパありがとうございます

早川里美様、U様、T様、他匿名様よりお志や切手等を頂戴しました。

### ☆お知らせ

※7月下旬から8月初旬にかけて、在所は各班行事さん、他所は総代さん、行事長さんと住職が分担して巡回しました本年度門信徒会費に、皆様からご協力を賜りありがとうございます。尊いお志に厚く感謝申し上げます。※お盆シーズンの3日間連続で「孟蘭盆会法要」と「永代経法要」にはようこそお参り下さいました。コロナの影響を懸念しましたが、無事お勤めできますことを厚くお礼申し上げます。

※一縁会テレホン法話、住職が8月10日(月)と16日(日)の1週間担当します。TEL059・354・1454へお電話下さい。3分の法話が流れます。☆お悔み申し上げます

★堀野トミ子様(97歳・八田・7月24日往生) 合掌

### ☆編集子より☆

「善正寺だより」321号をお届けします。◇一旦鎮静化されたかに見えた新型コロナウイルスが再び感染拡大傾向。感染者やその家族が居場所を奪われ引越さざるを得なくなった。り、県外ナンバー車排斥の動きなど、恐怖感に駆られたトラブルが人間の醜悪な側面をさらけ出す。◇排除は最も仏さまの悲しまれる行為。身を慎みつつ令和合の世界に立ち返りたい。◇貪り、怒り、愚かさに流されず、しなやかな心と振る舞いを。南無、合掌。

コロナの夏仰見舞申し上げます。一旦治まるかに見えましたが、七月から八月にかけて、感染拡大。この先の行事予定が懸念されます。ただ言えることは今までのやり方に固執してはダメだということ。オンライン授業やリモート参加が当たり前になり、マスクは常識、直接対面せずとも仕事や学習が可能になりました。自粛生活が長引いてウツになる人や認知症が進んだ高齢者もいます。法要も様変わりしてネット配信される寺もあります。本堂での法事を遠くに住む親戚にスマホのアプリで中継される方もいて驚きました。ところで沢山の病気を抱えた方が「坊守さん、白内障だと大騒ぎしているけれども、手術が無事済んで治ったと喜んでいてはダメですよ。人工レンズに取り替えても次はレンズを包む袋が濁り再びレザ、光線の手術が必要ですよ。目はわかりではなく耳や歯や足腰や内臓までも次々に予期しない病気に襲われます。これが老いの女性の現実です。何故自分だけと嘆いてみても始まりません。次々に病気に悩むのも諦相成。自分の受けた業なのだ。わが心に拵り念いをつけて日々淡々と生きていくことが大事ですよ」と教えて下さいました。私は「拵り念いをつけて日々淡々と生きる」という言葉が心に残りました。どうか聞いてもダメならば、素直に受け入れて自分に納得させて、後は阿弥陀様に全てお任せする心が大切だと受け取りました。かつて経験したことの無いコロナで先行き不安な毎日ですが、自分が置かれた立場や今までの生き方を見つめ直す機会にしたいと思っております。コロナの闇を打ち破る光が差すことを信じています。合掌

令和二年九月

善正寺坊守洋